

プロジェクトタイトル	他大学（九州大学）との協働による学習意欲の向上と実践的観光プロモーションの創出～グローバルフィールドワーク 2025 夏
プロジェクト代表者	西出崇（連携者：松本朋哉）

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、小樽を訪れるインバウンド観光客向けの観光コンテンツや地元企業のプロモーション創出をテーマとした実践的なフィールドワークである。地域に関する知識を深め、リサーチや商品開発のスキルを習得することに加え、本年度は新たに九州大学との共同開催という形式を採った。遠隔地の学生同士が混成チームを組み、多様な価値観に触れながら協働することで、学生の学習意欲を大いに刺激し、主体的な学びを促進することを重要な目的としている。

2. 具体的な取組内容

授業は6月からの事前学習と、7月18日から21日までの集中授業で構成された。小樽商科大学の学生は事前に地元住民や観光客へのインタビュー等の調査を行い、観光資源の発掘を進めた。7月18日午後から九州大学の学生（10名）が合流し、両大学の学生による混成チームでのグループワークを実施した。小樽の学生が持つ地元ならではの視点と、九州大学の学生が持つ外部からの新鮮な視点を交えながら、小樽の街で実際にプランを検証するオンサイトテスト等を行い、最終日にはその成果をプレゼンテーションとして発表した。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

受講生へのアンケート結果から、「他大学の学生と一緒に活動すること」に対する満足度が極めて高く、共同授業が学生の学習意欲を大きく盛り上げる結果となったことが確認された（アンケートの詳細は添付資料を参照のこと）。学生からは「違う大学の人と一緒に授業を作り上げるような経験がなく、とても楽しかった」「離れた土地で他大学の学生と協力する機会は貴重である」といった声が寄せられ、初対面の学生同士による協働が大きな糧となっている。また、学生の多くが「他大学・留学生との協働力」や「観光プランの企画力・実践力」が身についたと実感しており、実践的教育として多大な効果があった。地域に対しては、学生たちの多様な視点が融合した新たな観光・プロモーションプランを提示することで還元できた。さらに、九州大学の学生から「企画の初期段階（課題設定等）からオンライン等で協働したかった」という主体的な提案も複数寄せられるなど、学生の高い参加意欲がうかがえ、今後のプログラム改善に向けた重要な知見を得ることができた。

2025年度 小樽商科大学・九州大学 グローバルフィールドワーク受講者アンケート集計

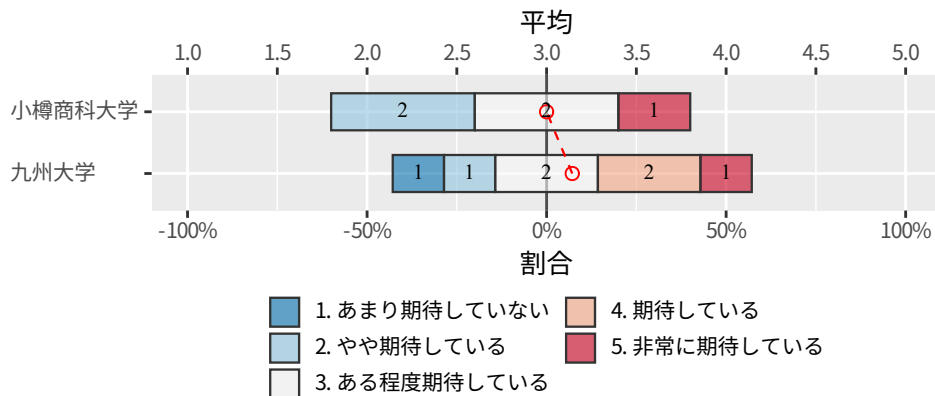
西出 / 松本
2026/02/26

1. 回答状況

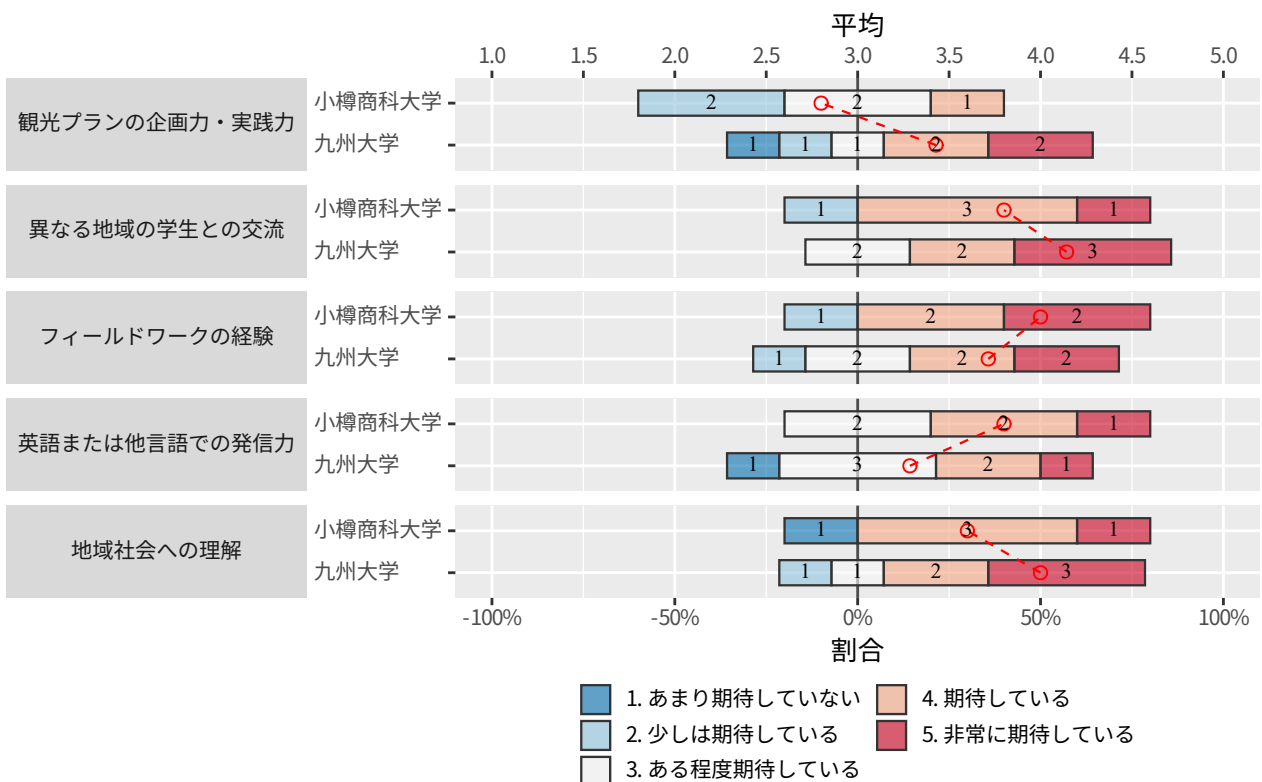
大学	受講前			受講後		
	回答数	回答率	n	回答数	回答率	n
小樽商科大学	6	20.7%	29	9	34.6%	26
九州大学	7	58.3%	12	5	50.0%	10
合計	13	31.7%	41	14	38.9%	36

2. 受講前調査

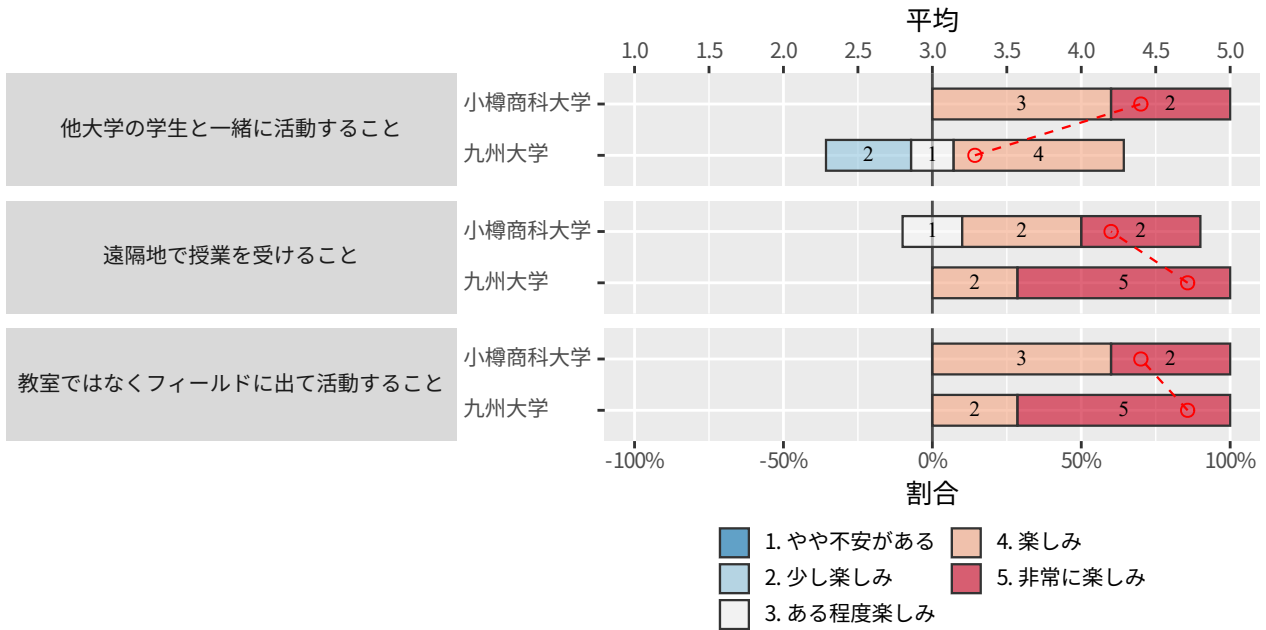
2.1. 授業に対する全般的な期待



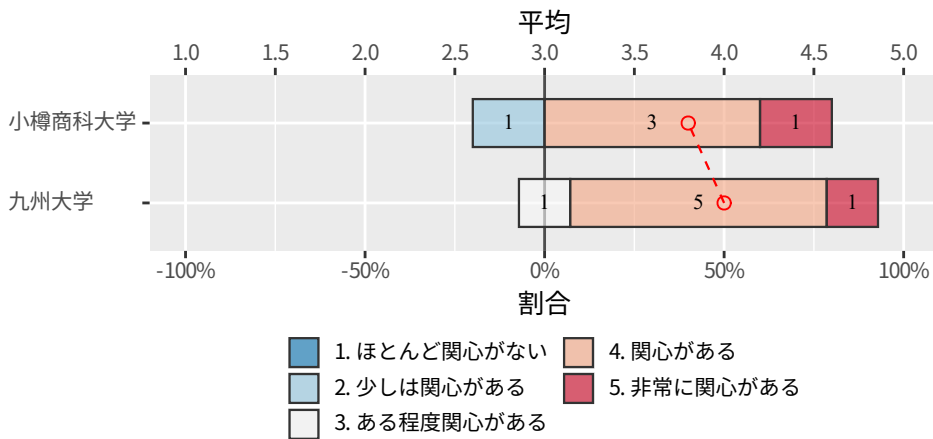
2.2. 授業を通して何を修得することを期待するか



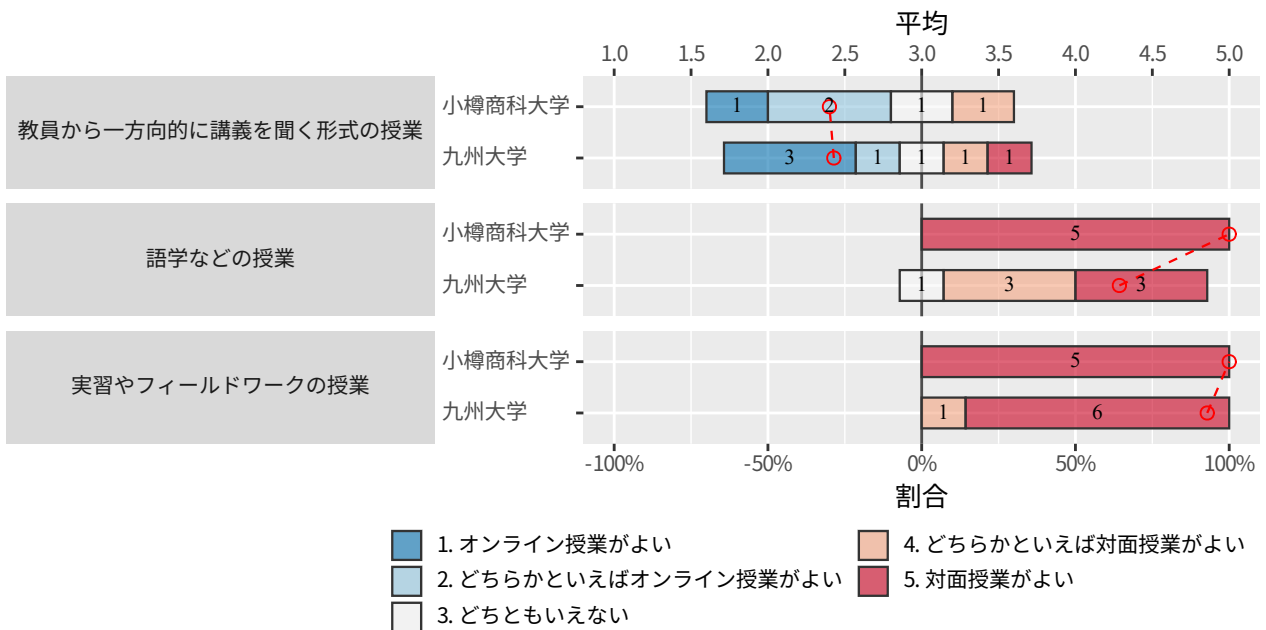
2.3. 授業に対する期待や不安



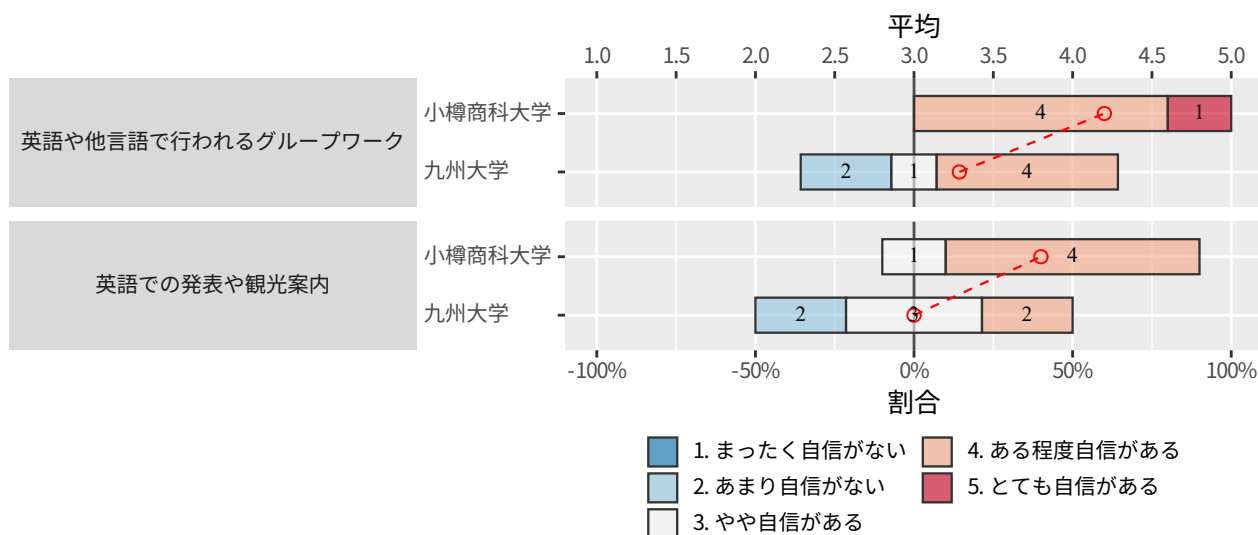
2.4. 「小樽」という地域に対する関心



2.5. オンライン授業・対面授業のどちらに魅力を感じるか



2.6. 英語や多言語環境での学びに対する自信



2.7. 本科目の受講理由

No.	大学	受講理由
1	小樽商科大学	グローバルな視点から小樽という地のプロモーションを考えてみたかった。留学生の子と仲を深めたかった。
2	小樽商科大学	アクティブなグループプロジェクトを経験できそうであったから
3	小樽商科大学	To have a look into different companies/industries to see live how they work
4	小樽商科大学	Because I wanted to gain practical experience
5	小樽商科大学	・卒業単位になる ・留学生との交流を深められる
6	九州大学	To have fun and gain credit
7	九州大学	シラバスを見て、授業内容に魅力を感じたから。また、北海道にはあまり行く機会がなくこのような機会に違う地域を知ると言うことをしてみたかったから。
8	九州大学	地域理解を目指した観光事業への興味があったのと、環境を変えて学べる機会を得るために履修を希望しました。 個人的な理由として小樽観光や北海道観光をしたいという気持ちが強かったです。
9	九州大学	北海道に来てみたかったから。
10	九州大学	海外留学を経験し、外国人として観光地を訪れる視点を持った結果、日本で観光する外国人の視点にも考えをはせるようになりました。そこから、観光客によってより良い経験ができ、かつ地元の人にとって有益で持続的な観光業を営めるにはどうすべきかなどに興味を持ったため、今回の受講に至りました。
11	九州大学	観光に興味があり、日本のインバウンドを振興する方法について模索したいと考えたから。
12	九州大学	・地方創生に興味があり、その方法の一つとして観光産業の振興を眼中に入れているため、その参考になると考えて履修した ・北海道の既存の食、芸術文化とインバウンド観光とのバランスに興味があるため

2.8. 授業を通して修得したいこと（選択肢以外）

No.	大学	習得したいこと
1	九州大学	輪に入ることを恐れないこと。
2	九州大学	企画力やプレゼン力はもちろんですが、客観的にプロジェクトを俯瞰して、より良いものにしていく力を修得したいです。

2.9. 他大学の学生との協働を通じて自分にどのような変化を期待するか

No.	大学	他大学の学生との協働で自分にどのような変化を期待するか
1	小樽商科大学	新たな視点を得ることができる
2	小樽商科大学	To gain new insides when coming across new and different opinions
3	九州大学	新しい地域を通して知識を得たいと思う
4	九州大学	出来上がっている輪に入ることは怖いですが、意外とうまくいって殻がむけてほしい。
5	九州大学	学んできた環境はもちろん、学んできた内容やカリキュラムも異なる学生たちと協働することによって、これまで得られなかった新たな知見を得られるのではないかと期待しています。

2.10. 小樽の観光資源や文化について知りたい・体験したいと思うこと

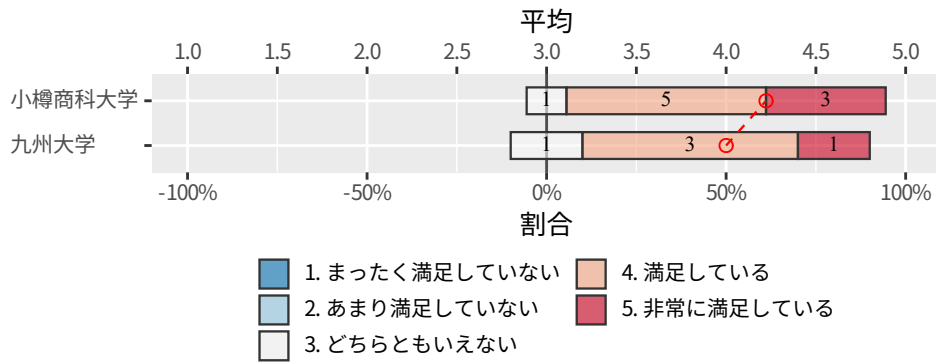
No.	大学	小樽の観光資源や文化について知りたい・体験したいこと
1	小樽商科大学	グローバル入試の際に小樽の歴史から勉強したから、現在の姿、歴史が残したのを見たい。
2	小樽商科大学	小樽が持つ地域の魅力。(すでに人気である観光地の他にも)
3	九州大学	Natural resources, history and culture(both ainu and modernization period)
4	九州大学	小樽には一回来たことがあるので、前回とは違う歴史やアートの魅力を体験したり、知ったりしたい。
5	九州大学	来る途中にたくさんいた観光客がどういった目的で訪れているのか気になる。
6	九州大学	ガラス工芸やオルゴールなどの文化資源と、建物や運河などの歴史的な資源に興味があります。またそれだけでなく、SNS やインターネットで容易には見つけることのできない場所を知りたいと思います。
7	九州大学	小樽が観光地となった歴史・経緯や、食文化についてもっと知りたいと思いました。
8	九州大学	食、アート、景観保存

2.11. 対面授業において特に価値を感じる点

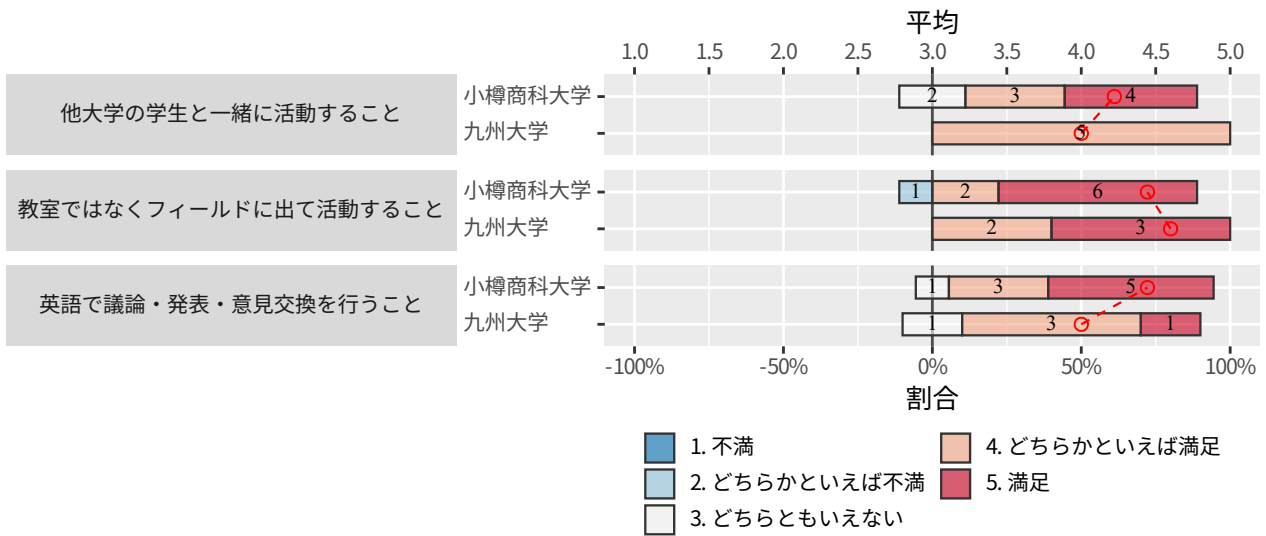
No.	大学	対面授業において特に価値を感じる点
1	小樽商科大学	細かなニュアンスまで汲み取れるし、友達と意見交換ができるから好き。オンラインは一方的な授業になりがちで、集中力が続かなくて得るものが少なく感じる。
2	小樽商科大学	交流がある。
3	小樽商科大学	The social interactions
4	九州大学	授業への没入感。
5	九州大学	先生や生徒とインタラクティブに対話することによって、理解や解像度を上げることができる点。
6	九州大学	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が一人一人の顔を見ながら授業ができるため、それぞれの理解度を客観的に見れる ・授業終わり、授業中の質問がしやすい ・人と直接話すことが必要な際に、一度に複数のコミュニケーションが取れる

3. 受講後調査

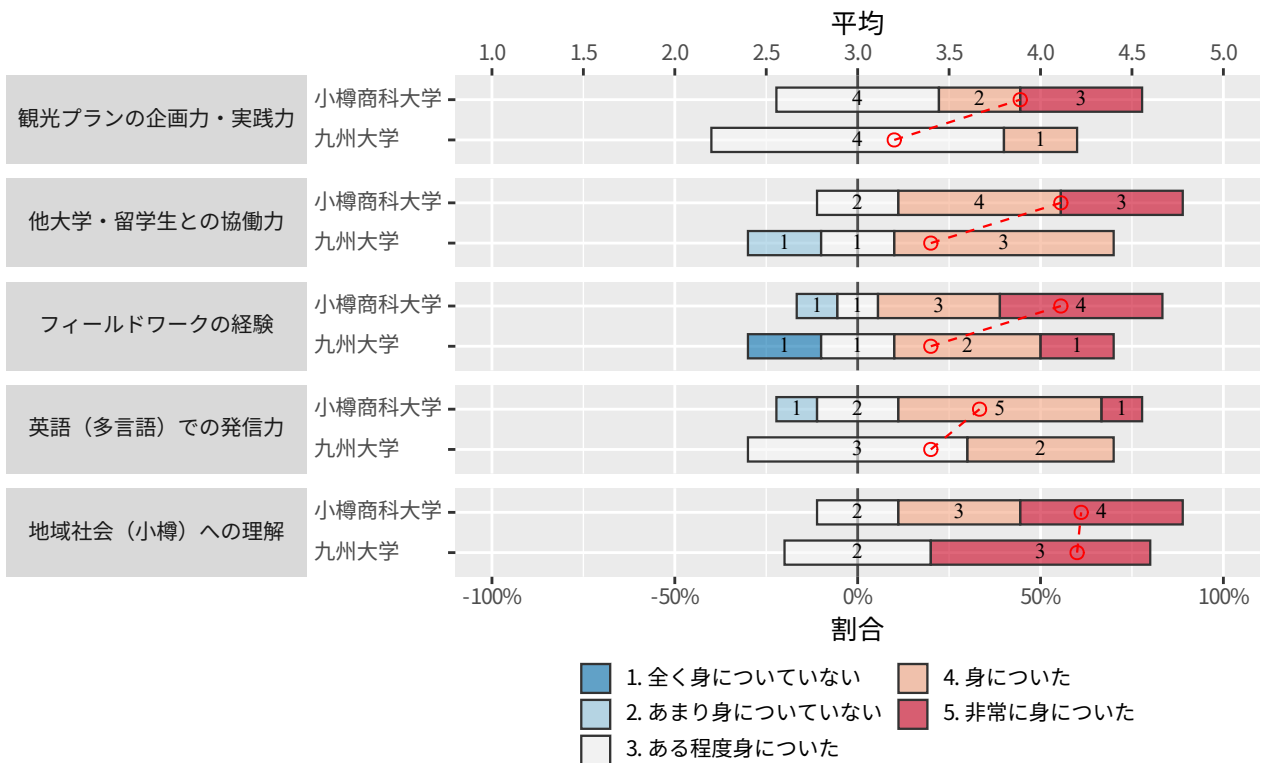
3.1. 授業の全般的な満足度



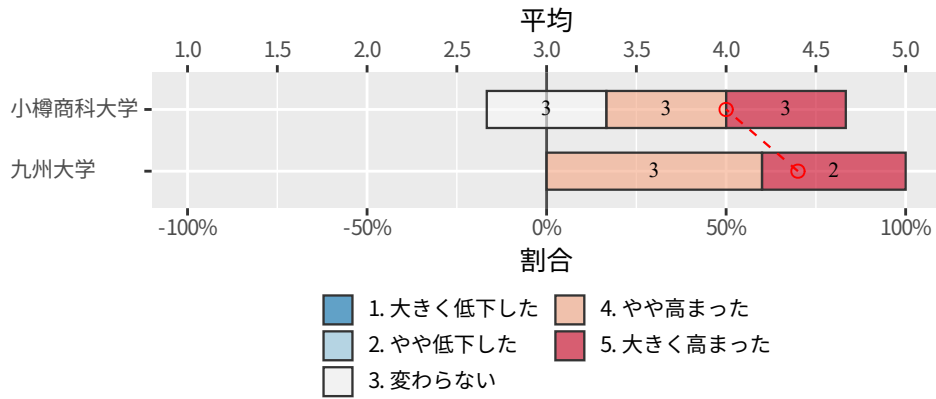
3.2. 各活動に対する満足度



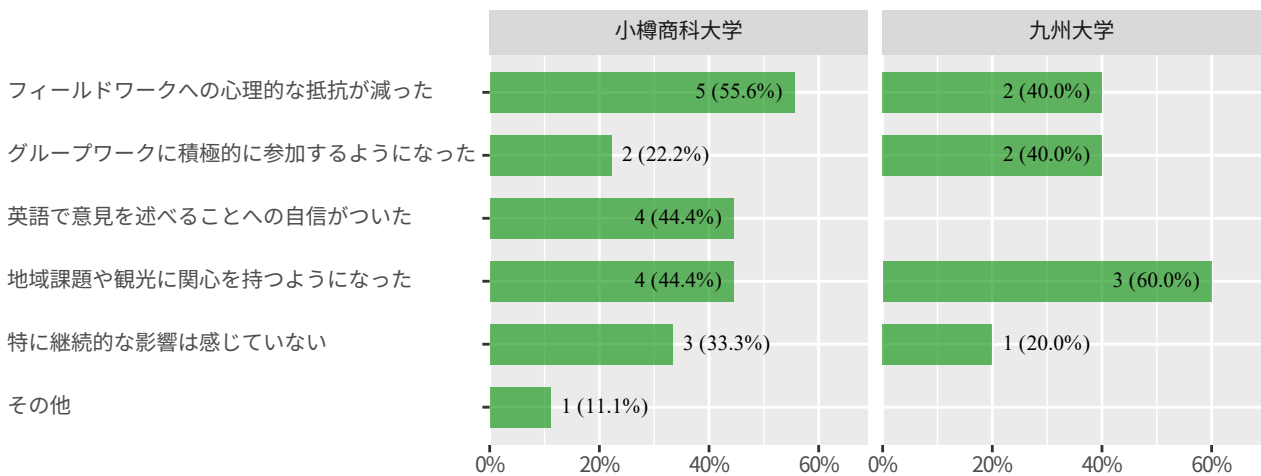
3.3. 授業を通して身についたこと



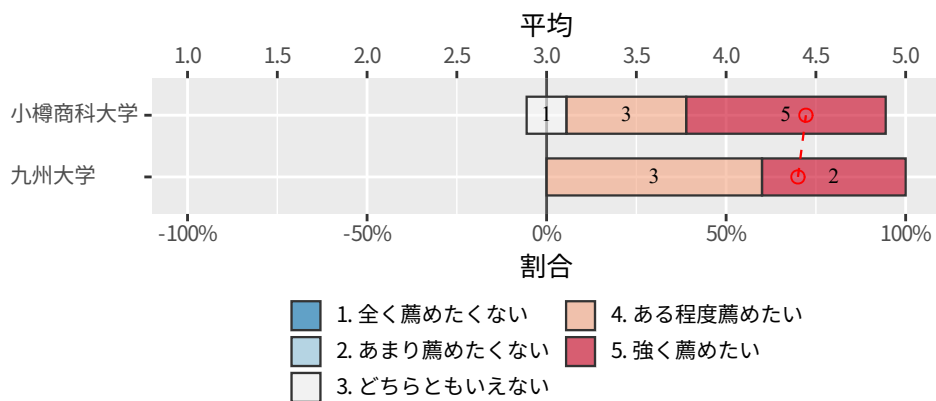
3.4. 「小樽」という地域に対する関心の変化



3.5. 授業の経験が役立っていると感じること（複数選択）



3.6. この授業を後輩に薦めたいか



3.6.1. 薦めたい / 薦めたくない理由

No.	大学	薦めたい / 薦めたくない理由
1	小樽商科大学	英語でプレゼンテーションやディスカッションをする経験はなかなかないし、フィールドワークで英会話をするということは、クラスのトピックだけでなく日常会話もできるようになるからです。
2	小樽商科大学	大学がある小樽市という街を観光資源として捉え、留学生の視点や、他大学の学生の視点からの意見を交えフィールドワークをすることで街への理解度が高まり、自分の街の深い魅力について日本語でも英語でも語るができるようになる。

Continued on next page

(Continued)

No.	大学	薦めたい / 薦めたくない理由
3	小樽商科大学	異なる国籍の学生や他県からの学生と交流する機会があり、貴重な経験だから
4	小樽商科大学	同年代と良い交流ができる ある程度自由な活動計画を立てるのが良かった
5	小樽商科大学	社会に出ても役立つような経験を積むことができる。 小樽商大ならではの活動だし、この大学に入ってよかったと思える授業だと思うから。
6	小樽商科大学	実践的な内容で学びを深めることができるから。
7	九州大学	授業に対する不満は少なく、遠く離れた場所に友達もできる
8	九州大学	これまで違う大学の人と一緒に授業を作り上げるような経験がなく、とても楽しかったから。しかし、ところどころ小樽の学生と急 h 数大学の学生で前提が違って混乱することもあったためその点は大変だった。
9	九州大学	小樽という離れた土地で、他大学の学生と協力する機会は貴重だから。

4. 特に印象に残っている活動や学び

No.	大学	印象に残っている活動や学び
1	小樽商科大学	隠れた観光資源をみつけるというコンセプトで、地元である小樽のまだ知らない面をみつけられた。
2	小樽商科大学	自分たちでプランの検証として実行までできたことがとても印象に残っている
3	小樽商科大学	グループメンバーと仲良くなったこと。
4	九州大学	やはり初めての土地で、初対面の方々と企画を作り上げていくという経験は、自分にとってとても糧になる経験でした。
5	九州大学	小樽の学生の方々が考えていたプランを実際に回ってのフィールドワークはとても印象に残っている。また、雨の中で BBQ したのもさまざまな人たちと交流を深めることができた。やはり、地元の人が作る観光ルートと実際に外から来た人が考える観光ルートはかなり違うと思った。小樽に詳しい方々が作る観光ルートの方がよく地元の 雰囲気を知ることができ、目的を持った観光ができると思った。

5. この授業をより良くするために改善すべき点や提案

No.	大学	この授業をより良くするために改善すべき点や提案
1	小樽商科大学	I was a bit disappointed when we didn't explore different industries in Otaru like advertised but just made some tourist guides. It didn't feel like we could get a deeper look into parts of Otaru that we otherwise couldn't see. Instead it felt like we were just walking around Otaru as usual but with more paper work. So I think doing the program as before would be best
2	小樽商科大学	予算がもう少し各グループに割り振られると、よりグループごとの差が生まれ、実際観光に訪れた人がお金を払いたいと思う観光資源が見つかるのではないかと考える。
3	九州大学	せっかくならもっと 2 大学の協働要素を強くするのではないかと考えました。例:) 事前にオンラインで軽い交流会や意見交換会を設けるなど
4	九州大学	小樽商科大学の学生が作ったものに参入するのではなく、最初からオンラインなどでやり取りをしながら課題設定、どのようなプロジェクトで進めるのか、と言ったことを決めていくべきだと思う。発表を作るにあたり、小樽商科大学の学生が何を課題として設定しているのかを理解するのに時間がかかったから。
5	九州大学	九州大学の学生はできたプランを実際に回るところから合流したが、実際にプランをつくるころから協働できたら、北海道についてよく知らない人に向けた観光プランを s 作ることができると思う。

Continued on next page

(Continued)

No.	大学	この授業をより良くするために改善すべき点や提案
6	九州大学	もっとテーマや課題が具体的に設定されていると良いと思った。また、九大生側は現地に行ったあと提案されたルートを巡るだけになってしまっていたので、オンラインなどで事前に打ち合わせの機会があればもっと参加できたと感じた。